

【SSH海外研修〔12月18日(水)～25日(水)〕】

昨年度に引き続き、今年度も科学部4名（2年生）がタイを訪問しました。中心となった活動は、タイ王国から招待を受けて参加した「タイ・日本学生ICTフェア（TJ S I F）」です。12月20日(金)～22日(日)の3日間、マレーシアとの国境に近いタイ南部サトゥン県にある「プリンセスチュラポーン科学高校（PCSHS）」のサトゥン校を会場として開催され、日本からは14の高校と11の高専が参加し、多くのタイの高校生と交流しました。

〔12月18日(水)〕

5:30 発の高速バスで長崎駅前を出発、8:50 に福岡空港に到着、出国手続後、航空機に搭乗し、約5時間半の空旅の後、現地時刻（日本から－2時間）14:00 にバンコクのドンムアン空港に到着しました。入国後、現地添乗員の案内で最初の研修地である「パーククロン市場」に向かいました。ここは多種多彩な熱帯の花弁を扱う市場で、地元民と密着した活力のある流通現場に没入しました。次に水族館「シーライフバンコクオーシャンワールド」を訪れ、熱帯に生息する様々な水生動物を観察しました。どちらの施設でも日本とは違う「熱帯」を体感し、今回の研修に向けて期待が高まる訪問となりました。

〔12月19日(木)〕

ドンムアン空港発 7:50 の便に乗り、9:30 にトラン空港に到着しました。そこで本校の世話校であるPCSHSサトゥン校の先生方の出迎えを受け、13:30 にはTJ S I Fの会場に到着し、同校の生徒達の大歓迎を受けました。この日からの4泊は、この学校の学生寮での宿泊となります。まずは、発表へ向けてのポスターを設置し、その後、タイの高校生と英語で交流を深めました。

〔12月20日(金)〕

TJ S I F初日は、開会式で始まりました。13:00 からは、参加生徒が一同に集まり、課題研究のポスタープレゼンが実施され、本校は2名が“Consideration on the Movement of Ocean Currents in Semi-Enclosed Sea”（「閉鎖性海域における海流の挙動に関する考察」）を、他の2名が“Development of a Trash Can that Can Peel PET Bottle Labels”（「ペットボトルラベル剥離ごみ箱の開発」）を発表しました。聞きに来てくれたタイ人の高校生に向けて、英語で一生懸命説明し、うまく通じたり、興味を示してくれたりしたときには嬉しそうにしていました。18:30 からの歓迎会では、タイの音楽や舞踊などの伝統文化を満喫しました。

〔12月21日(土)〕

TJ S I F2日目は、参加生徒による課題研究のスライドプレゼンです。海流班は9:00 からごみ箱班は14:00 から、それぞれ割り当てられた部屋で発表しました。今回の海外研修でのメインイベントかつハイライトとして、タイの高校生を前に緊張と不安が入り混じる中で、自分達がこれまで取り組んできた課題研究について英語で堂々と発表し、事前の準備や練習の成果を存分に発揮することができました。その後の「ICTワークショップ」では、タイ人講師の指導により、ブレンダーというソフトウェアを使って、パソコンの画面上で3Dモデルを作成する活動に取り組みました。

〔12月22日(日)〕

TJ S I F最終日は、野外実習が設定され、4つのコースの中から、本校4名は「マングローブ林保全センター」を選択しました。隣国マレーシアを臨む海岸で、まず担当者から講習を受け、その後、干潟に生息するハゼやカニを探したり、マングローブの木々の情報を集めたりしました。午後には会場校に戻り、数班に分かれ、野外で学んだことを報告するために、英語で意見交換をしながら準備を進めました。法被をまとって参加した送別会では、タイの高校生による伝統舞踊などが次々と演じられ、初日の歓迎会同様の盛り上がりを見せました。本校4名は日本側の代表として、他の2校とともに宮城県の「すずめ踊り」とAKB48の「恋するフォ

ーチュンクッキー」を披露しました。この4日間の滞在を通して、タイ人高校生と交流しながら、科学英語を海外で発信するという貴重な体験をすることができました。

〔12月23日(月)〕

4日間お世話をしてくれたタイ人高校生達から見送りを受け、名残惜しい気持ちでPCSHSサトゥン校を6:00に出発し、トラン空港に向かいました。11:10にはドンムアン空港に到着し、再び現地添乗員の案内でバンコクから西のラチャブリ県に向かい、まず「メートンイップガーデン」を訪れました。この果樹園では、多品種の熱帯果実を観察したり、触れたり、試食しながら、その植生、栽培、流通について学びました。長崎県の特産品でもあるザボンの源流が東南アジアであることも新たな発見でした。次に訪れた「タイガーワールドタイランド」は、熱帯動物で絶滅危惧種のトラを飼育・保護し、人間との共存・交流に取り組んでいます。この動物園でトラに触れたり、餌を与えたりという貴重な体験をすることができました。トラの行動を体感すると同時に、動物保護・福祉についても考える機会となりました。

〔12月24日(火)〕

いよいよタイでの最終日です。この日は3つの施設を訪問しました。最初は「ネオファーム」です。この農業公園では、栽培されている商用の洋蘭や多肉植物を観察しましたが、さらに飼育されている水牛を見せてもらうこともできました。次の「ワットカノーン」という仏教寺院には、多種多様な植物が群生しており、熱帯サバナ気候の植生を観察することができました。また、境内のあちらこちらで野猿が出没し、人目も気にせずに行動していました。最後は「ワットカオチョンプラン」です。ここも仏教寺院ですが、夕方になると、敷地内の洞窟から数百万匹と言われるコウモリが次々と飛び出し、20分以上に渡って、大空を黒く染め抜きました。初めて見るその異様な光景に圧倒され、自然の神秘を感じずにはいられませんでした。3日間で訪れた施設で、日本とは違う熱帯の様々な学習資源に触れ、科学への好奇心と視野を広げることができました。そして、多くの研修成果と思い出を胸に、深夜便でドンムアン空港からバンコクを飛び立ちました。